アドバンストマテリアルジャパン株式会社
ADVANCED MATERIAL JAPAN CORPORATION

日本経済新聞
2006年（平成18年）2月25日（土曜日）

市況診断

レアメタル

中国の供給減り上値追う

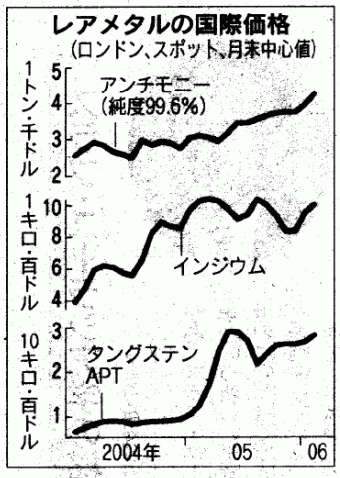
タングステン、最高値更新も

硬度や難燃性を高める素材として欠かせないレアメタル（希少金属）の国際価格が高騰している。代表的なタングステン、インジウム、アンチモニーはいずれも資源が中国に偏在し、環境問題も絡んで供給量が限られる。需要は世界的に好調なため需給引き締まり感が強く、さらに上値を追いそうだ。

■最高値に接近　国際指標になっているロンドン市場のスポット価格（中心値）は今週、自動車生産用の超硬工具ドリルに使うタングステンの中間原料APT（パラタングステン酸アンモニウム）が十キロ二八二・五ドル、液晶パネル材料のインジウムは一キロ一〇二・五ドル。APTは昨年初めの三倍、インジウムも一七％高く、過去最高値に接近している。

家電外装材用の合成樹脂の難燃性を高めるアンチモニーは一トン四三五〇ドル。昨年初めより五八％高く、一九九五年九月以来の高値だ。

三品目とも中国産への依存度が高い。中国は安い労働力と採掘・精錬技術を併せ持ち、タングステンとアンチモニーでは世界生産量の約八割、インジウムは約七割をそれぞれ占める。カナダ産の供給が安定して価格が低水準なコバルトとは事情が異なる。



■中国が鉱山稼働を規制　中国の供給量は減少する公算が大きい。「野積みした鉱石から汚水が河川に流れ込む」（東京アドバンスト・マテリアル・ジャパン（東京・港）の中村繁夫社長は予測する。

自国内消費の拡大を背景にした輸出抑制策も影響してくる。中国政府は（東京タングステンやアンチモニー輸出時の増値税（付加価値税）還付率を昨年五月に一三％から八％に引き下げ、今年一月には五％に下げた。輸出業者にとっては実質増税で、輸出を抑えて国内に振り向ける狙いがある。

世界のレアメタル需要は好調だ。超硬工具協会（東京・千代田）によると、タングステンを使う超硬工具の昨年の出荷額は前年比一三・四％増の二千九百三十六億一千七百万円と二年連続で過去最高を更新した。インジウムは日韓台の液晶パネルメーカーが長期契約などで調達を増やし、スポット市場では先高を予想したトレーダーの投機買いも見られる。

■新規供給の開拓困難　日本は供給リスクに備えレアメタル七品目を備蓄しているがインジウム、アンチモニーは対象外だ。回収システムが整いリサイクル率が七割に上るインジウムを例に、約三割とみられるタングステンのリサイクル率を高めて高騰の影響を避けようとする動きも出ているが、即効性はない。

「中国以外の供給国をすぐに開拓することは難しい」（朝日弘資源課長）とあって、先高観が強い。APTは十キロ二九〇ドル、インジウムは一キロ一〇四〇ドルとそれぞれの過去最高値、アンチモニーは節目の一トン四五〇〇ドルを近く超えそうだ。

（中西誠）